

# 近代文明を見直し

## 第三の価値を

### 生み出す。

「結びの思想」の拠点は静岡に。

静岡は陰陽和合の地

**知事** 町田さんが仏門に入られたきっかけは？

**町田氏** 小学生の頃はキリスト教会に通っていたのですが、何しろ虚弱体質で、凄く肉体的コンプレックスを抱えていたのです。それで、禅寺にでも行って体を鍛えようと思っただけです。14歳で家を出して、実家の近くにあった大徳寺に飛び込みました。

**知事** 14歳で家出？また思い

静岡県知事

川勝平太



広島大学名誉教授  
町田宗鳳氏

現在世界は、さまざまな危機にさらされ、

あらゆる価値観の見直しを迫られている。

今後の人類はどこを目指すべきなのか。

御殿場高原の一角に無宗派寺院「ありがとう寺」を構える

比較文明学者の町田宗鳳氏と川勝平太・静岡県知事は、

今こそ日本の文化、思想、哲学を世界へ発信すべきと訴える。

ともに京都に生まれ、国内外を広く見聞した後、

静岡に拠点を構えた二人が発する人類へのメッセージとは。

切ったことを。

**町田氏** 10代半ばというのは、誰でも自我意識が強まり、心理的に不安定になる時期です。小僧を8年、雲水を12年、大原の庵に独居すること1年。その後、意を決してアメリカに留学しました。

**知事** 20年も仏門にいなから、アメリカ留学ですか？

**町田氏** 私は高校生の時から鈴木大拙の書物を読み耽っていましたから、常に大拙のように日本の思想や文化を世界に発信できる人間になることを夢見ていました。そんな思いが現実を引き寄せたのか、34歳の時、ハーバード大学の神学部で全額奨学金付きで入学できたのです。

**知事** なるほど。凄く転身ですね。

**町田氏** それまでと全く違う世界を体験してみたかったです。寺で暮らすうちに日本仏教は思想的にも組織的にも、制度疲労が起きていることに気付いたので、ここでもう一度仏教というか、日本の宗教を見直さなくてはならないと考えるようになったのです。

その後、私はペンシルベニア大学で、禅とは無関係の法然上人に

ついて博士論文を書きました。彼の宗教体験の深さが、斬新な思想を生み出したことに注目したのです。それまでの鎮護国家の宗教ではなく、彼は「男女貴賤を問わず、誰でも念仏を称えただけで救われる」と無謀なほど大胆なことを言い出した。その結果、日本思想史の潮流は、大きく変わりました。その事実を比較宗教学的に明確にしたかったのです。

**知事** 日蓮も、町田さんと同じで10代で仏門に入っています。法然も10代で一念発起しました。

**町田氏** 仏教史の中では、多くの僧侶が10代半ばで出家しています。思春期特有の identity crisis（自己喪失）が、その動機になるようです。

**知事** 日蓮は「法華経」に出てくる不軽菩薩や上行菩薩に自己を同化し、試練を克服するのが菩薩の道だと思なした。また現実を「法華経」の説く世界にしようとして、法華経で社会を変えようとした。

**町田氏** 密教のメッカである比叡山に30年以上もいた法然も山を下り、顕教の鎌倉仏教のパイオニアになりました。その革新性を

**知事** ヨーロッパでも、その頃からルネサンスが始まります。通常は14世紀から16世紀を「イタリヤ・ルネサンス」と呼びますが、それ以前に、アラビア語に訳されていたギリシャ哲学が、ラテン語に翻訳され、キリスト教世界へ滔々と入りこむのが12世紀です。西洋でも東洋でも「12世紀ルネサンス」が起きています。

**町田氏** 思想の流れは、世界同時進行です。ペルシャやキリスト教のネストリウス派の影響も、相当地に早く日本に到達していたはずなんです。

**知事** 親鸞の思想の核にある二種廻向論は、極楽への往相と極楽からの還相からなっていますが、それは、キリスト教の神の昇天・再臨の思想と構造が同じです。

**町田氏** 古代日本には海洋民族と平地民族が外から来て、その間に土着の民族、仲介する民族がいたように思います。その頃から、融合が日本文化の祖型になっていきます。登呂遺跡も縄文文化と弥生文化の融合点だったはずなんです。

**知事** 日本は海に開かれた島国です。韓半島や中国の江南から

は大陸文化、東南アジアからは黒潮に乗って、世界各地の文化が渡来しました。例えば、静岡の旧名は「駿河」ですが、「スルガ」はインドネシア語で「天国」だそうです。インドネシアのジャワ州知事が何度も静岡に来られて「姉妹関係を結びたい」と言われる。話を聞くと、「スルガは天国」という意味だ。静岡の富士山はそのシンボルだ」と(笑)。

**町田氏** じゃあ、我々は天国の住人ということになりますね(笑)。東洋と西洋、科学と宗教、自然と人間、善と悪、生と死、意識と無意識など、近代文明の中で二律背反的に対峙させられてきたものを結び合わせ、第三の価値を生み出すことを、私は「結びの思想」と呼んでいます。人生の最終段階において、融合の地・静岡に拠点を持つことになったことにも、なにか必然的なものを感じています。特に富士山は、日本のOmphalos(臍)ですから、融合型文明の象徴とみなすべきでしょう。

**知事** 仮に頭が東京とすれば、密は京都です。盆地の京都が陰だと

すれば、平野の東京は陽です。頭密と陰陽が交叉し融合する場所が富士山、わが静岡です。日本列島は逆し字形で、中心に霊峰がそびえています。しかもフォッサマグナ内に位置していて、7000万年前の古い地層と1500万年前の新しい地層がここ富士山の麓で接しています。

**町田氏** 中央構造線と糸魚川―静岡構造線がここで交差していますから、地震の危険性も抱えています。凄くエネルギーの高い土地でもあります。だから静岡は、優秀な人材や企業を輩出しているのだと思います。

**知事** フイリピン海プレート、北米プレート、ユーラシアプレートがここで交差している。一種の軸芯ですから、巨大な場の力を秘めています。歴史的、文明的に見ると、東洋の宗教が京都に、西洋の科学が東京に取り込まれました。静岡は東海道のと真ん中で、東西の文明が往来する、東西の文明が融合する場であるといえます。

**町田氏** 私は先日、久能山東照宮のご神廟を参拝して、家康を改めて見直しました。あの人がルギー源ができるはずなのですが、私はその前に思想革命があると思つています。これはものすごく大事なことで、日本を代表する哲学者である梅原猛さん、ふじのくに地球環境史ミュージアム館長の安田喜憲さん、そして知事もおつしゃつています。アニミズム的な基礎文化がある日本から、新しい文明の思想軸を発信しなければならぬ。知事は本の中で華厳思想のことを書いておられますが、事法界・理法界・理事無礙法界・事々無礙法界という「四種法界」にも言及されています。

その事法界(アニミズム的世界)、理法界(超越的一神教世界)、理事無礙法界(科学と法を中心軸に置く現実的世界)を透過させて、事々無礙法界(多様性の中に絶対平等を認める融合的な世界)的なアニミズムを今の日本ですっかり定義づけ、「これが人類の希望の哲学である」ということを、我々が国際社会に伝える責任があると思います。

**知事** 賛成です。華厳経のいう「事法界」は現象世界です。人間は言葉を持つ動物ですが、言葉で理



静岡県知事  
川勝 平太

1948年生まれ。京都市出身。早稲田大学、同大学院を経て英オックスフォード大学で博士号取得。早大教授、国際日本文化研究センター教授、静岡文化芸術大学学長などを経て2009年より現職。現在3期目。

大御所政治をここでしたというのは、西国と東国をここで結び合わせることにあった。そして、遺言で「自分が死んだら久能山に埋めろ」とおつしゃつたのは、幽の世界と顕の世界を結び合わせるという覚悟ですね。

**知事** 家康は秀吉によって江戸へ飛ばされましたが、「江戸には水がある」と気付いた。利根川を霞ヶ浦のほうへ付け替え、荒川を引いて、江戸の水運システムをつくります。その工事には実質1000年を要しましたが、家康は將軍職をすぐに秀忠に譲り、出身地の岡崎ではなく、駿河に戻り、富士山が見えるように駿府城を築きました。家康は、京都を見限り、東京の原点をつくりました。家康は東西両方を見据える場所を最後に選んだ。そ

論的に表現できるのが「理法界」です。言葉はロゴスともいわれます。**町田氏** 一神教的な世界ですね。それが、近代文明の基軸になっている。**知事** 「はじめにロゴス(言葉あり)の一神教です。それは華厳経の「理法界」であり、「理性」や「理」に近い。

**町田氏** 日本人は昔から事々無礙法界の文化を生きているし、そういう世界が日常的になっています。ただ残念なことに、それが意識化できていない。今こそ、主語的論理(ロゴス)でも述語的論理(パトス)でもなく、第三の論理が求められています。西田幾多郎はそれを「場所的論理」と呼びましたが、華厳哲学では「事々無礙法界」となります。

れが霊峰を仰ぐ静岡です。

**町田氏** 知事は今、水を守るためにリニア問題に取り組んでおられますが、私はそれをすごく象徴的だと思つています。メディアでは「J&Rと闘っている」とみたくに表面的なことしか言わないけれど、そうではなくて、文明的にすごく重要な命題に取り組んでおられます。私は、次世代の文明に移行する時には、水の存在価値がすごく大事になってくると思つています。

**知事** 命にとって最も大切なのは水です。家康は水を活かして江戸時代を開き、駿府では安倍川も付け替えました。治水事業の成功で駿府は城下町になりました。

**町田氏** 水なくして日本どころか、人類も存続できません。

**知事** 「事々無礙法界」の「事」とは目に見える現象です。**町田氏** おおつ、凄く本質的なところを突いて来られましたね。当たり前の世界に当たり前ではないものがある。

**知事** 事法界は目に見えるので、物の世界です。「理法界」の「理」は、ロゴスの精神世界ですから、目には見えません。**町田氏** 形而上学ですから、形而下にあるのが「事」で、目に見える「事法界」は物の世界です。生物の根本は水です。目に見えない地下水も、地表を流れる川もある。目に見える水と見えない水があり、両方が一体で循環し、万物の「事々無礙法界」が成り立っている。水の循環は守らなければいけません。

**知事** 形而上学ですから、形而下にあるのが「事」で、目に見える「事法界」は物の世界です。生物の根本は水です。目に見えない地下水も、地表を流れる川もある。目に見える水と見えない水があり、両方が一体で循環し、万物の「事々無礙法界」が成り立っている。水の循環は守らなければいけません。

**知事** 水をとるのか、リニアの先端技術をとるのか、二者択一の議論になりがちです。「あれこれか」という発想は欧米的です。私は「あれもこれも」だと思つています。**町田氏** つまり顕密融合的な発想ですね。

**知事** 融合です。融和と言つてもいい。「和」とは、1と2の和は3というように、足し合わせることで、大きく和すと「大和」です。「大和」の漢字を訓読みすれば「やまと」で、日本のことです。

華厳思想と水循環

**町田氏** 現代は、まさに文明の転換期で、新しい文明が間もなくやってくると私は思つています。新しい文明が起きるときは、技術革命が起きて、新しいエネ

**町田氏** これは静岡の問題というよりも、地球社会の問題ですね。**知事** そのとおりです。地球は水の惑星です。水が循環しているから、生命が息づき、人間も生きています。駿河を地球のミニチュアに見立てています。

**町田氏** その駿河の知事が、地球規模の命題に取り組んでいる。リニアの問題は、経済というよりも哲学的課題です。**知事** 「ふじのくに」はシンボリックな場所です。

**町田氏** アカデミズムの第一線で活躍されてきた川勝知事ですが、今度は地方自治の革命家になって頂くことを念じています。**知事** 本日はありがとうございました。**町田氏** ありがとうございます。

(令和2年2月26日対談)



広島大学名誉教授  
町田 宗鳳氏

1950年生まれ。京都市出身。プリンストン大学助教授、国立シンガポール大学准教授、東京外国語大学教授、広島大学大学院総合科学研究科教授を経て、現在は都留文科大学特任教授、ふじのくに地球環境史ミュージアム客員教授も務める。